

令和7年度 3学期始業式式辞

皆さん、新年あけましておめでとうございます。

今日から三学期が始まります。三学期は一年で最も短い学期ですが、次の学年、次のステージへと向かう準備期間でもあります。どうか、一日一日を大切に過ごしてほしいと思います。

さて、年末、ニュースで尼崎市の伝統文化が特集されていました。ここ尼崎は古くから酒づくりに関わる町として知られています。

この中には、初詣に行った人も多いと思いますが、多くの神社で、酒樽が奉納されているのをよく見かけるかと思います。藁(わら)で包まれた酒樽です。この酒樽に巻かれている藁を「菰（こも）」といい、菰樽と呼ばれています。

この菰樽は、実は全国で使われているものの多くがここ尼崎で作られており、生産量は日本一を誇っています。

この菰は、縁起の良いデザインとなっていますが、それだけでなく、お酒を外部の衝撃から守り、時間をかけてじっくりと熟成させるという大切な役割を担っています。

皆さんも、学校という菰に包まれて学習を進める中、内面では、努力してもすぐに結果が出ない、思うようにいかず悩むこともあるかと思いますが、そうした目に見えにくい時間や経験が、人としての深みをつくっていると思っています。

三年生のさんは、菰を外し、それぞれの道へ進む時期を迎えています。これまで培った力を、これから存分に発揮してください。

一・二年生のさんは、熟成まで今しばらく時間はかかりますが、人としての深みが出るよう、焦らず、目の前の一日を大切にしてください。

この三学期が、皆さん一人ひとりにとって、次へつながる実りある時間となることを願っています。